

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	運動と学習の放課後等デイサービス みらいズ		公表日	2026年 3月 9日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の清掃をチェックリストに基づき行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		ロールカーテンや衝立を用い、スペースを分けて対応している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		参画している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		行っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		話しやすい雰囲気づくり、進言には耳を傾け、まずはやってみようという前向きな組織になっている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		行っている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		行っている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		行っている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		行っている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		検討している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		行っている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		行っている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		行っている。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		行っている。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		行っている。		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		行っている。		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		行っている。		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		行っている。		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		行っている。		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		行っている。		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		行っている。		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		行っている。		
	28	(28～30は、センターのみ回答)					
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	31	(31は、事業所のみ回答)					
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。					
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○					
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			動画や写真を使用しLINEにて毎回利用状況を共有している。		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○				見学・体験時にご要望をお聞きし、利用時のご様子を動画や写真を用いLINEでお伝えしている。その上で送迎時などお話を聞きながらじっくり話せるお時間が作れていない。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			契約時にお伝えしている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			更新時にはモニタリングシートをお渡しし、目標やご要望をお聞きしている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			頂いている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			個別でご相談頂いた際には、時間をとってご相談に乗り、改善策や支援内容の見直しを行っている。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		イベント開催時には療育参観を兼ねて、保護者通しの交流する時間を取っている。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		行っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		Instagramにて活動の様子をアップしている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		行っている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		○xカードや視覚で伝えられるように工夫している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		自治会に参加している。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		新規面談時に確認している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		新規面談時に確認している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		行っている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		行っている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		行っている。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		行っている。	外部研修にも積極的に参加している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。		○	身体拘束は行っていない。		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動と学習の放課後等デイサービス みらいズ		
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日		～ 令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	令和8年 1月10日		～ 令和8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・運動と学習の支援が受けられ、また、継続して放課後等デイサービスへの移行が出来る事。	・多機能型事業所の強みを生かし、児童発達支援と保育所等訪問支援を併用して頂くことで、よりおさまの困りごとに寄り添い、集団や保育所等での活動の把握・情報の共有に努めている。	・訪問先の事情等を踏まえ、フレキシブルに対応を行っている、今後も綿密な連携を図り対象児童の成長に貢献したいと考えております。
2	・児童発達支援終了後も、継続して放課後等デイサービスへの移行が出来る。	・多機能型事業所の強みを生かし、児童発達支援から放課後等デイサービスへのスムーズな移行、切れ目のない支援が受けられる。	・新規で来られた保護者様やおさまに対して、丁寧にご説明させて頂き、必ず体験利用して頂きます。その中で事業所の取り組み等ご理解いただいた上でご契約頂いている。
3	・短い時間で充実した支援の提供。	・運動と学習両面共に、限られた時間の中で日々支援を行い、おさまの達成度を日々記録・評価を行いフレキシブルに療育メニューを提供している。	・より良い教材や支援内容を提供できるように、多方面にアンテナを張り、外部の研修やZOOM等での研修参加を積極的に行っている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・放課後等デイサービスとの兼ね合いで、午前中だけの受け入れとなってしまう。	・提供スペースや提供職員の確保が難しく時間に制限を作らざるを得ない状況。	・今現在では午後からの受け入れが難しい状況で有るが、ニーズなどを考慮し対応を検討したいと考えている。
2	・送迎について…出来る限り送迎を対応したいと考えているが、車両や人員、保育所等の時間の関係で対応できないケースがある。	・時間的な縛りや保育所・ご家庭、当事業所の受け入れ状況などで、希望の日に受け入れが困難な事がある。	・今現在では午後からの受け入れが難しい状況で有るが、ニーズなどを考慮し対応を検討したいと考えている。
3			